

カナダの金融市場動向 Weekly Report

【2018年10月27日～2018年11月2日の推移】

【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドルは、対円で上昇しました。また、カナダ5年国債利回りは上昇しました。

先週は、米国雇用統計が堅調な結果になったことや米国株が持ち直したことにより、投資家のリスク回避姿勢が後退したことがカナダの金利やカナダ・ドル円の上昇圧力となりました。

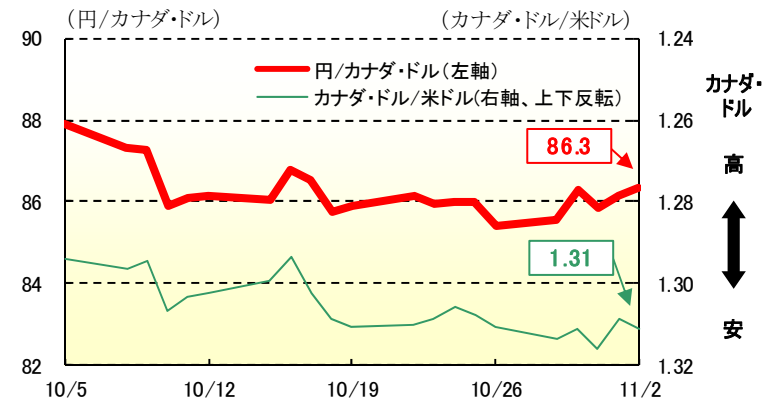
経済統計ではカナダのGDP(国内総生産)、雇用統計の発表があり、GDPは予想を上回る結果となったものの、雇用統計に関しては雇用者数は予想を下回る軟調な結果になりました。ただ、雇用者数の内訳をみるとパートタイム雇用者数が減少し、フルタイム雇用者数が増えているため、雇用の質は改善していることが示唆される内容でした。

【2】今週の見通し

今週は、住宅着工件数や新築住宅価格指数などの発表が予定されています。また、米国ではFOMC(連邦公開市場委員会)の開催が予定されており、政策金利据え置きの見方が大勢になっております。

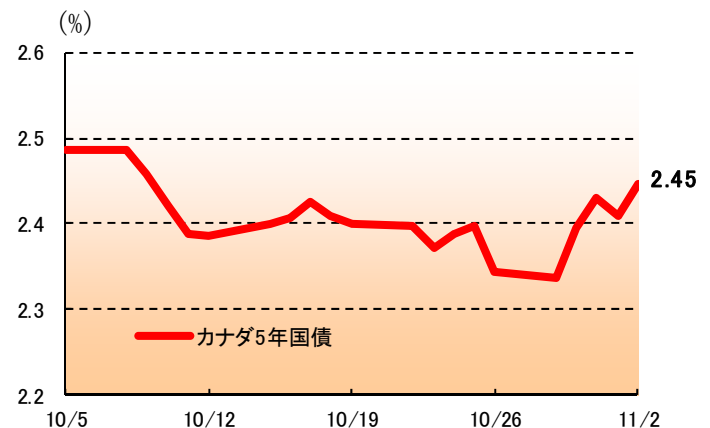
足元では軟調に推移していた株式市場が値を戻しつつあり、このまま市場のリスク回避的な姿勢がさらに後退すればカナダの金利やカナダ・ドル円の上昇圧力になると考えられます。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2018年10月5日～2018年11月2日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

【カナダ 金利推移】 (2018年10月5日～2018年11月2日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>